全国林業研究グループ連絡協議会の50年

全国林業研究グループ連絡協議会（略称：全林研）は、森林所有者および林業に従事する者等を会員として、会員相互が林業に関する技術・知識の習得等を通じて林業経営を担う者を養成するとともに、林業経営の向上に資することを目的として1960（昭和35）年4月に設立した。

林業研究グループの活動はその名が示すとおり、主として林業技術の研鑽、習得、学習活動を中心として進められてきており、その具体的内容は、次のとおりである。

①間伐等育林技術の習得と実践および林業経営の改善
②シイタケの栽培等特用林産物と木材生産を組み合わせた複合経営の習得と実践
③苗木生産、育苗技術の習得と実践
④森林施業計画の樹立の推進のほか、女性林業グループの農山村の生活改善のための学習等

近年は、単にグループ内での技術研鑽、習得にとどまらず、他の林業研究グループとの技術交流、都市の女性グループとの交流等地域にその活動領域を広げ、50年を迎えようとしている。

全林研が設立される以前は、社団法人全国林業改良普及協会（略称：全林協）が創立当初から、林業普及事業を農林家に浸透させるためには林業研究グループが最も重要な役割を果たすものと考え、青少年グループを中心に林業研究グループの育成を行っていた。

こうした林業研究グループの育成に努めたこともあってグループが増加してきたため、散在する各林研グループ間の情報連絡を図るために県段階での連絡協議会の設立が続いた。1956（昭和31）年10月の宮城県での創立を皮切りに、58年に新潟県・福島県、59年に静岡県、60年に北海道と設立されていった。

グループ活動の健全な発展のためにはグループ相互の密接な連携と交歓が必要だとされ、上記のような県段階での組織化が進み、その成果も上がってきたため、全国的な組織結成の気運が醸成されてきた。

このような中で、1960年4月28日、全林協の協力のもと農林省ホールにおいて、待望されていた「全国林業研究グループ連絡協議会」（全林研）が結成され、全林研事務局は全林協内に置かれた。当日の会員は5道県の連絡協議会で、初代会長に門間宇一郎氏（宮城県）を選出した。その後会員数が増加し、10年後の70年には45道府県とほぼ全国規模になり、74年に全国47都道府県加入の組織になった。

全林研は78年度に全国の林業研究グループの現況を明らかにするための調査を実施し、同年10月に発表した。その内容は、①林業グループの名称、②会員数（男・女別）、③会員の年齢（最高・最低・平均）、④事務所所在地、⑤会長（氏名、住所）と、各都道府県林業研究グループ連絡協議会の①名称、②加入グループ数、③グループ員数、④事務所所在地、⑤会長（氏名、住所）やその総括表である。

(1)全国青少年林業改良実績発表大会

全国青少年林業改良研究集会
全国山村青年林業技術交換研修大会

全林協は1953（昭和28）年に発足以来、まず最も力を入れたことは山村青少年の林業意欲をいかにして高めるかということであった。その目的を達成する手段として、各都道府県から選抜された青少年の林業研究の発表大会を開催し、優秀者を表彰することとした。

1960年から始まった全国林業研究グループリーダー研修会。東京都八王子市南浅川町梅の木平「青年の家」に宿泊しての現地技術研修が行われた

第1回の大会は54年4月25～27日の3日間、東大農学部、京橋公会堂で行われた。この第1回目の審査員は、国土緑化推進委員会・村上龍太郎、林野庁・臼井（林政）、仰木（計画）、斉藤（造林）、原（研究普及）の各課長、林業試験場小幡経営部長、農業改良局・川戸（教育）課長、日本青年団協議会・二宮会長、日本林業技術協会・松川理事長の各氏であった。

以後、この林業青少年による林業研究の実績発表大会は毎年4月・5月頃、3日間にわたって行われ、参加者も第1回の53名から58年の第5回には78名に増加した。

国を挙げての造林の時代。植え付け技術習得に汗を流した

入選者には農林大臣賞、林野庁長官賞、全国林業改良普及協会長賞（第5回はNHK会長賞も）が贈られた。

この青少年を対象とした全国大会は、
○54～58年度（第1回～5回）
全国青少年林業改良実績発表大会
○59～65年度（第6回～12回）
全国青少年林業改良研究集会
○66～74年度（第13回～21回）
全国山村青年林業技術交換研修大会
（主催・林野庁、協賛・全林協・全林研）と集会の名称や内容も変えながら青少年に期待をかけた全国大会が継続

仲間どうしの強いきずなが生まれた

して開催された。なお75年度から94年まで、後述するように全国シンポジウムと形も内容も変えて引き継がれた。

60年4月に全林研が設立されてからは、全林研と全林協の共催で大会を運営してきた。なお第13回からは林野庁主催、全林研・全林協の協賛で運営された。

(2)林研グループリーダー研修会

全林研が発足してから取り組んだ主要な行事として「林業研究グループリーダー研修会」がある。

(1)で前述したように、全林協は林業青少年に対する研究集会などを実施してきたが、その集会は大会形式（会期3日間、参加人員約２００人）のものであった。この大会に対してリーダー研修会は、各都道府県から推薦されたグループリーダー約30人が5～6日にわたって、じっくり研修しようとする企画であった。

第1回研修会は、１９６０（昭和35）年9月5日から6日間、参加者30人で、全林研・全林協共催、林野庁後援で行われた。1日目は林業試験場を見学した後、2日目から八王子市の東京都青年の家に合宿し、グループ活動の進め方やあり方の研究討議、講義や実習による経営設計の立て方、土壌調査の技術等を習得した。

研修会の会場は1～4回は東京都青年の家、5～15回までは東京都八王子市南浅川町梅の木平に全林協が建設した「青年の家」で行った。その後74年の第16回以降、今日まで東京オリンピック記念青少年総合センターで実施している。

研修日数は61年の第2回目から85年の第26回までが5日間、第27回の86年～93年の第34回までは4日間、第35回以降は3日間で実施している。

なお、このリーダー研修会は78年度以降、国の助成による林業グループ育成事業の一環として、さらに95年度から地域リーダーレベルアップ事業として女性の参加を得て実施している。その後、事業名は２０００年度から林業者等活動支援事業、06年度からは林業後継者活動支援事業と変わった。これまでの参加者は、02年度の第48回までで１４８５人となっている。

女性が参加するようになったのは、全林研が91年から3年間、緑と水の森林基金の助成を得て、高尾グリーンセンターにおいて2泊3日の「婦人グループリーダー研修会」を開催したのがきっかけである。

(3)林研グループリーダー強化研修会

林研グループリーダー研修会は、全林研発足以来主要な行事として実施されてきた。

この研修会は毎年約5日間にわたって行われ、卒業生は毎年約33、34名であったが、１９６４年度になって、第1回のグループ・リーダー研修会参加者（卒業生）が、懐かしい研修会合宿所（八王子市梅の木平・青年の家）に集まり、その後グループリーダーとしての活動体験を語り合う勉強会を実施（65年3月5～7日）した。

この勉強会は「林研グループリーダー研修生体験座談会」と改名され、65、68、70、72、74、76、79、81、86、88と、ほぼ2年おきに1泊2日で実施された。

(4)林研グループブロック交換会

林業グループブロックシンポジウム
地域林業グループコンクール

１９６０（昭和35）年に全林研が設立されてから、林研グループリーダーの全国研修会などが開催されるなど活動も活発化した。しかし、全国に広がる多数の林研グループが1カ所に集まり実施する方式には限度があることから、全国を6ブロック（①北海道・東北、②関東、③中部・北陸、④関西・近畿、⑤中国・四国、⑥九州）に区分して会合を開き、その会合には全林研の役員と全林協の職員が出張参加することとした。

ブロック交換会の主旨は、「単位グループの活動促進」、「ブロック内の情報交換と問題点の解決」であって、開催にあたってはブロック内の役員の協力を求めて開催担当都道府県の都道府県林研が主旨にそって自主的に企画、運営をするというスタイルをとってきた。

1974年以降は東京オリンピック記念青少年総合センターで実施

だが、78年度からは国の助成によるグループリーダー育成事業の一環である「林業グループブロックシンポジウム」を、この交換会にあわせて行うことになり、全国共通のテーマを定めてまずブロックで討議し、その結果を全国シンポジウムで報告・討議するようになった。

さらに、95年度からは「地域林業グループコンクール」と名称を変え、単位グループの活動コンテストスタイルになった。

2泊3日で語り合った第1回林業女性グループリーダー研修会

(5)林研グループ全国シンポジウム

全国林業グループコンクール

１９７５（昭和50）年度に、国の助成による全国林業グループ活動促進事業が新規に始まり、その一環として、林業グループ全国シンポジウムが毎年1回開催されることとなった。それが、78年度からはグループリーダー育成事業の中に包含され、各都道府県林業研究グループ連絡協議会（県林研）の会長もしくはこれに準ずる者が各都道府県ごとに原則として1名ずつ参加して、毎年1回開催されている。そして、94年まで続いた。

前述したように78年度からは、ブロックシンポジウムが従来からのブロック交換会にあわせて行われるようになったので、ブロックシンポジウムのテーマが自動的に全国シンポジウムのテーマになっている。当初の5回と最後の5回分のテーマを記してみよう。

１９７８年度：林業グループの活動と地域社会との連携―とくに市町村・森

林組合との協調
1979年度：林業研究グループの組織の強化―とくに次代を担う後継者の育成について
1980年度：地域林業の振興に際して、林業研究グループが果たすべき役割について
1981年度：厳しい林業情勢に対処するため、林業グループ（あるいはそのメンバー）はなにをすべきか
1982年度：間伐の推進に関わるグループ活動の実績と今後の推進策について
1990年度：明日の山村・林業の夢を語ろう
1991年度：今、わたくしたちのグループは……
1992年度：いま、山に生きる
1993年度：WE LOVE FOREST―森林と仲間づくり―
1994年度：WE LOVE FOREST―山村を楽しむ―

なお、全国シンポジウムは95年度から全国林業グループコンクールに包含され、ブロックで推薦を受けた地域の6グループ代表による発表大会を実施し、農林水産大臣賞、林野庁長官賞を決定することとした。

(6) 林研グループコンクールと事例集の作成

林業研究グループは1965（昭和40）年頃になると全国に約2000を数えるようになった。これらの自主的集団活動を行っているものの中から特に優秀な実績をあげているグループを表彰することによって、その成果が全国的に拡散することを願って、全国林業研究グループコンクールを実施することとした。

また、コンクールの際に収集した調査書を基本として、優良グループの事例集（A5判・約150～200頁、1回1600～2500部）を作成して配布している。

主催は全林研と全林協で、98年までは林野庁後援であった。

72年度を第1回として5年間実施、5年間休んで82年度から再開して今日に至っている。賞は農林水産大臣賞、林野庁長官賞、全国林業改良普及協会長賞、全国林業研究グループ連絡協議会長賞である。

全国林業研究グループコンクールの発表風景

(7) 全国林業後継者大会

全林研は林業後継者を主体にして自主的な集団を支えてきたが、これらの活動の多くは、一部のグループ員によるものであり、全国の林業後継者が多数一堂に会して、問題点を解明し、さらに今後の方向について語り合う機会がなく、その必要性が痛感されていた。そこで、毎年開催されている全国植樹祭にあわせての開催を関係方面に依頼し、全国林業後継者大会が実施されることになった。

1970（昭和45）年5月19日に第21回全国植樹祭が福島県で行われ、これを契機として前日（18日）と当日（19日）、福島県磐梯青年の家および全国植樹祭会場において、福島県、福島県林研連との共催により第1回全国林業後継者の集いが行われた。約200名が参加し、各県の林研旗を先頭に入場した。

その後、73年の宮崎県での第24回全国植樹祭以来、全国林業後継者大会と命名し、毎年全国植樹祭の開催県において、2日間の後継者大会が開催されている。

第31回全国林業後継者大会（山形県）

全国後継者の集い・全国林業後継者大会開催県一覧

開催年	全国植樹祭の回数	開催県	開催年	全国植樹祭の回数	開催県
1970（昭和45）	第21回植樹祭	福島	1992（平成4）	第43回植樹祭	福岡
1973（昭和48）	24回	宮崎	1993（平成5）	44回	沖縄
1974（昭和49）	25回	岩手	1994（平成6）	45回	兵庫
1975（昭和50）	26回	滋賀	1995（平成7）	46回	広島
1976（昭和51）	27回	茨城	1996（平成8）	47回	東京
1977（昭和52）	28回	和歌山	1997（平成9）	48回	宮城
1978（昭和53）	29回	高知	1998（平成10）	49回	群馬
1979（昭和54）	30回	愛知	1999（平成11）	50回	静岡
1980（昭和55）	31回	三重	2000（平成12）	51回	大分
1981（昭和56）	32回	奈良	2001（平成13）	52回	山梨
1982（昭和57）	33回	栃木	2002（平成14）	53回	山形
1983（昭和58）	34回	石川	2003（平成15）	54回	千葉
1984（昭和59）	35回	鹿児島	2004（平成16）	55回	宮崎
1985（昭和60）	36回	熊本	2005（平成17）	56回	茨城
1986（昭和61）	37回	大阪	2006（平成18）	57回	岐阜
1987（昭和62）	38回	佐賀	2007（平成19）	58回	北海道
1988（昭和63）	39回	香川	2008（平成20）	59回	秋田
1989（平成元）	40回	徳島	2009（平成21）	60回	福井
1990（平成2）	41回	長崎	2010（平成22）	61回	神奈川
1991（平成3）	42回	京都			

⑧全林研女性会議の誕生

１９９７（平成９）年２月25～27日に東京・代々木のオリンピック記念青少年総合センターに、32県42名の林研女性会員各県代表が集まって全林研女性会議の規約案・活動方針案などを協議した。

それまで全林研は、全林協に協力して「全国林業女性学習の集い」を89年度から、「婦人グループリーダー研修会」を91年度から実施してきた（94年から男女合同開催）。そして全林研執行部は89年ごろから婦人部の組織化について協議を重ねており、91年度の第1回婦人グループリーダー研修会の参加者の中から2名の婦人部代表幹事候補者を選出して、92年度から全林研の婦人部代表としての理事に正式に就任した。

近年、ますます活躍がめざましい女性グループ

全林研は97年度の通常総会で規約を改正して全林研女性会議が誕生し、代表は全林研副会長、副代表の２名は全林研理事に就任、女性代表として活動している。当面の活動は、情報誌の発行（全林研の機関誌「緑創」の編集、女性会議の機関誌「はつらつ」の発行）、林業女性交流会の開催、他団体との積極的な交流などである。

また、91年度から農山漁村婦人（女性）の日記念行事への参加も行っている。

⑨その他

①機関誌

全林研は創立当時から、Ａ５判の機関誌「林業グループ」を発行していたが、数年で休刊。１９７７（昭和52）年からタブロイド判の機関紙「緑創」を新たに発行して今日に至っている。編集については、全林研女性会議が担当している。

②森林（もり）の市

86年から、春に東京・代々木公園で催される「森林の市」へは、89年から全林研として、主に関東地域の林研グループが地域の産物を持って毎年参加している。05年からは、「みどりの感謝祭」の併催行事として、日比谷公園で行われるようになった。

③林研グッズの販売

全林研はメンバーの意識高揚と資金調達などを目的に、88年から「ＷＥＬＯＶＥ Ｆｏｒｅｓｔ」のロゴ入りＴシャツ、トレーナー、帽子などのユニホームの制作販売を始めた。他にポロシャツ、ジャンパー、タイピン、バッジ、タオルなどの販売も行っている。

④下敷きの配布

93年度から全国統一行動として展開している「山村からのメッセージ運動」に活用する下敷きを配布し、林業後継者の育成、森林・林業のイメージアップを図りながら、あわせて「緑の募金」への協力を行っている。

『全林研50年の歩み』より一部改編